

# 倭迹迹日百襲姫命 大市墓出土の 祭祀に関する土製品の砂礫構成と砂礫の産地

奥 田 尚

## はじめに

桜井市箸中にある倭迹迹日百襲姫命の大市墓から出土している特殊器台・特殊器台形埴輪（以下、特殊器台に含める）・特殊壺は、器形と紋様から吉備地方で生産された土製品であるとする考え方、奈良盆地東南部付近で生産された土製品とする考え方、吉備地方から運ばれた砂礫を使用して奈良盆地東南部付近で製作された土製品とする考え方などがある。前二者の考え方については砂礫構成から結論を導けるだろうが、後者については砂礫構成から結論を出せる状況ではない。砂礫を運んでいる証拠がない限り、この考え方についてはいえることでなく、更に、運んだ砂礫を使用して土製品を作ったかどうかについての問題が残る。石製品については原材料が運ばれていることが多くの遺跡の出土品で確認されるが、砂礫が運ばれたといえる遺物や遺構を見聞していない。ここでは砂礫構成が同じ砂礫が産する大市墓から近距離の地を砂礫の採取地、土製品の生産地とする。

大市墓の前方部墳頂付近から壺形土器等が出土しているが、特殊器台・特殊壺は出土していない。後円部の墳頂付近からは特殊器台・特殊壺が出土している。これらの土製品の砂礫構成から土製品の製作地を推定することを目的に大市墓から出土している一部の資料<sup>(1)</sup>の表面にみられる砂礫を観察した（表1、第1～8図）。また、大市墓の前方部から出土している壺形土器と同様の形状を呈する桜井茶白山古墳後円部の墳頂から出土している壺形土器<sup>(2)</sup>を砂礫構成で比較するためにこれらの土器の観察も行った。

土製品の砂礫観察をするにあたり、大市墓の資料に関しては宮内庁書陵部陵墓課の方々、桜井茶白山古墳出土の資料観察に関しては奈良県立橿原考古学研究所附属博物館学芸員の方々にお世話になりました。記して厚く御礼申し上げます。

## 1 土製品の表面にみられる砂礫の特徴

特殊器台・特殊壺・壺形土器等の表面にみられる砂礫を裸眼と倍率20倍の実体顕微鏡で観察し、砂礫の石種を同定した。また、同定した個々の石種の粒形・粒径・量についても目測した。識別した石種は、花崗岩、閃緑岩、斑糲岩、石英斑岩、火山ガラス、石英、長石、黒雲母、角閃石、輝石である。これら石種の特徴について述べる。

花崗岩：色は灰白色で、粒形が角、亜角、粒径が最大8mmである。石英・長石、石英・長石・黒雲母が噛み合っている。

閃緑岩：色は灰白色、灰色で、粒形が角、粒径が最大3mmである。石英・長石・角閃石、石英・角閃石、長石・角閃石が噛み合っている。

斑糲岩：色は暗灰色で、粒形が角、亜円、粒径が最大8mmである。長石・角閃石、角閃石・橄欖石、輝石・橄欖石が噛み合っている。

石英斑岩：色は灰白色で、粒形が亜円、粒径が最大2mmである。石英、長石、黒雲母の斑晶があり、石基がガラス質である。観察資料No.5にみられる。

火山ガラス：黒色透明、無色透明で、貝殻状、フジツボ状、軽石状を呈し、粒径が最大0.7mmである。

石英：無色透明、粒形が角、粒径が最大3mmである。複六角錐あるいはその一部が認められるもの（以下、「自形」とする）もある。

長石：灰白色、粒形が角、亜角で、粒径が最大7mmである。

黒雲母：黒色、金色で、板状、粒状を呈し、粒径が最大3mmである。

表 1-1 大市臺出土の土製品の表面にみられる砂礫 (その1)

図 番号	観 察 資 料	石										種 物				種類と砂 礫の採取 推定地									
		花崗岩	閃緑岩	斑輝岩	流紋岩	泥 岩	チャート	片 岩	火山ガラス	石 英	長 石	雲 母	角閃石	輝 石	20倍										
第2図 1	出土地点 後円部 紀要27号 第2図6 昭43 No.1	裸眼	20倍 M	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	II ad類型 (1)吉備
第2図 2	出土地点 後円部 紀要27号 第3図10 昭43 No.1	裸眼	20倍 L	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	II ad類型 (1)吉備
第2図 3	出土地点 後円部 紀要27号 第3図14 昭43 No.1	裸眼	20倍 L	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	II ad類型 (1)吉備
第2図 4	出土地点 後円部 紀要27号 第3図18 昭43 No.1	裸眼	20倍 M	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	II ad類型 (1)吉備
第2図 5	出土地点 後円部 紀要27号 第3図21 昭43 No.1	裸眼	20倍 M	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	IV n類型 吉備
第2図 6	出土地点 後円部 紀要27号 第3図28 昭43 No.1	裸眼	20倍 M	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	II ad類型 (1)吉備
第2図 7	出土地点 後円部 紀要27号 第4図31 昭43 No.1	裸眼	20倍 M	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	I bc類型 (2)吉備
第2図 8	出土地点 後円部 紀要27号 第4図32 昭43 No.1	裸眼	20倍 L	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	II ad類型 (1)吉備
第2図 9	出土地点 後円部 紀要27号 第4図33 昭43 No.1	裸眼	20倍 M	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	II ad類型 (1)吉備
第2図 10	出土地点 後円部 紀要27号 第4図39 昭43 No.1	裸眼	20倍 M	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	II ad類型 (1)吉備
第2図 11	出土地点 後円部 紀要27号 第4図40 昭43 No.1	裸眼	20倍 M	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	IV b類型 吉備
第2図 12	出土地点 後円部 紀要27号 第4図43 昭43 No.1	裸眼	20倍 M	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	II ad類型 (1)吉備
第2図 13	出土地点 後円部 紀要27号 第3図16 昭43 No.2	裸眼	20倍 L	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	II ad類型 (1)吉備
第2図 14	出土地点 後円部 紀要27号 第3図20 昭43 No.2	裸眼	20倍 M	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	II ad類型 (1)吉備
第2図 15	出土地点 後円部 紀要27号 第4図42 昭43 No.2	裸眼	20倍 L	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	I bc類型 (2)吉備
第2図 16	出土地点 後円部 紀要27号 第5図58 昭43 No.3	裸眼	20倍 M	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	II ad類型 (1)吉備
第2図 17	出土地点 後円部 紀要27号 第4図46 昭43 No.3	裸眼	20倍 M	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	II ad類型 (1)吉備
第2図 18	出土地点 後円部 紀要27号 第4図48 昭43 No.3	裸眼	20倍 M	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	裸眼	20倍 M	微 角	II ad類型 (1)吉備
第2図 19	出土地点 後円部 紀要27号 榎輪Ⅲ(10) 中略(昭43 No.3)	裸眼	20倍 L	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	II ad類型 (1)吉備
第3図 20	出土地点 後円部 紀要51号 平10 No.24	裸眼	20倍 L	裸眼	20倍 L	微 角	裸眼	20倍 L	微 角	裸眼	20倍 L	微 角	裸眼	20倍 L	微 角	裸眼	20倍 L	微 角	裸眼	20倍 L	微 角	裸眼	20倍 L	微 角	II ad類型 (1)吉備
第3図 21	出土地点 後円部 紀要51号 平10 No.24	裸眼	20倍 L	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	裸眼	20倍 L	稀 角	II ad類型 (1)吉備

裸眼 = 裸眼観察 裸眼に L = 粒径が2mm以上 S = 粒径が0.5mm未満 20倍 = 実体顕微鏡の倍率が20倍 実体顕微鏡による観察 L = 粒径が1mm未満 M = 粒径が1mm未満0.3mm以上 S = 粒径が0.3mm未満 非 = 量が非常に多い 多 = 量が多い 中 = 量が多い 微 = 量がごく僅か 稀 = 量がごく僅か 一 = 以下に粒径があるものがある 貝 = 貝殻状 フ = フジツボ状 パ = 貝殻状 E = 自形のものがある EF = 結晶面があるものがある

表 1-2 大市墓出土の土製品の表面にみられる砂礫 (その2)

図番	観察資料		石										物種				種類と砂礫の採取推定地	
	報文番号	出土地点	器種	花崗岩	閃緑岩	斑輝岩	流紋岩	泥岩	チャート	片岩	火山ガラス	石英	長石	雲母	角閃石	輝石	II ad類型 (1)吉備	
第33図	紀要51号	後円部	特殊器台	L-稀	M						M-僅	M-中					II ad類型 (1)吉備	
22	紀要99	平10 No.24	特殊器台	L-僅	M						L-僅	M-中					II ad類型 (1)吉備	
第33図	紀要51号	後円部	特殊器台	L-僅	M						S	M-中					II ad類型 (1)吉備	
23	紀要100	平10 No.24	特殊器台	M	M						S	M-多					II ad類型 (1)吉備	
第33図	紀要51号	後円部	特殊器台	M	M						M-僅	M-多					II ad類型 (1)吉備	
24	紀要101	平10 No.24	特殊器台	M	M						M-僅	M-多					II ad類型 (1)吉備	
第33図	紀要51号	後円部	特殊器台	L-微	L-稀						M-僅	M-中					II ad類型 (1)吉備	
25	紀要102	平10 No.24	特殊器台	L-稀	M						M-僅	M-中					II ad類型 (1)吉備	
第33図	紀要51号	後円部	特殊器台	L-微	M						M-僅	M-中					II ad類型 (1)吉備	
26	紀要103	平10 No.24	特殊器台	L-微	L-稀						M-僅	M-中					II ad類型 (1)吉備	
第33図	紀要51号	後円部	特殊器台	L-微	M						M-僅	M-中					II ad類型 (1)吉備	
27	紀要104	平10 No.24	特殊器台	L-微	M						M-僅	M-中					II ad類型 (1)吉備	
第33図	紀要51号	後円部	特殊器台	L-微	L-稀						M-僅	M-中					II ad類型 (1)吉備	
28	紀要105	平10 No.24	特殊器台	L-微	L-稀						M-僅	M-中					II ad類型 (1)吉備	
第33図	紀要51号	後円部	特殊器台	L-稀	M						M	M-中					II ad類型 (1)吉備	
29	紀要106	平10 No.24	特殊器台	L-稀	M						M	M-中					II ad類型 (1)吉備	
第33図	紀要51号	後円部	特殊器台	L-微	L-微						M	M-中					II ad類型 (1)吉備	
30	紀要107	平10 No.24	特殊器台	L-微	M						M	M-中					II ad類型 (1)吉備	
第33図	紀要51号	後円部	特殊器台	L-微	M						M	M-中					II ad類型 (1)吉備	
31	紀要108	平10 No.24	特殊器台	L-微	M						M	M-中					II ad類型 (1)吉備	
第33図	紀要51号	後円部	特殊器台	L-微	M						M	M-中					II ad類型 (1)吉備	
32	紀要109	平10 No.24	特殊器台	L-微	M						M	M-中					II ad類型 (1)吉備	
第33図	紀要51号	後円部	特殊器台	L-微	M						M	M-中					II ad類型 (1)吉備	
33	紀要110	平10 No.24	特殊器台	L-微	M						M	M-中					II ad類型 (1)吉備	
第33図	紀要51号	後円部	特殊器台	L-微	M						M	M-中					II ad類型 (1)吉備	
34	紀要111	平10 No.24	特殊器台	L-微	M						M	M-中					II ad類型 (1)吉備	
第33図	紀要51号	後円部	特殊器台	L-微	M						M	M-中					II ad類型 (1)吉備	
35	紀要112	平10 No.24	特殊器台	L-微	M						M	M-中					II ad類型 (1)吉備	
第33図	紀要51号	後円部	特殊器台	L-微	M						M	M-中					II ad類型 (1)吉備	
36	紀要113	平10 No.24	特殊器台	L-微	M						M	M-中					II ad類型 (1)吉備	
第33図	紀要51号	後円部	特殊器台	L-微	M						M	M-中					II ad類型 (1)吉備	
37	紀要114	平10 No.24	特殊器台	L-微	M						M	M-中					II ad類型 (1)吉備	
第33図	紀要51号	後円部	特殊器台	L-微	M						M	M-中					II ad類型 (1)吉備	
38	紀要115	平10 No.24	特殊器台	L-微	M						M	M-中					II ad類型 (1)吉備	
第33図	紀要51号	後円部	特殊器台	L-微	M						M	M-中					II ad類型 (1)吉備	
39	紀要117	平10 No.24	特殊器台	L-微	M						M	M-中					II ad類型 (1)吉備	
第33図	紀要51号	後円部	特殊器台	L-微	M						M	M-中					II ad類型 (1)吉備	
40	紀要122	平10 No.25	特殊器台	L-微	M						M	M-中					II ad類型 (1)吉備	
第33図	紀要51号	後円部	特殊器台	L-微	M						M	M-中					II ad類型 (1)吉備	
41	紀要123	平10 No.25	特殊器台	L-微	M						M	M-中					II ad類型 (1)吉備	
第33図	紀要51号	後円部	特殊器台	L-微	M						M	M-中					II ad類型 (1)吉備	
42	紀要125	平10 No.25	特殊器台	L-微	M						M	M-中					II ad類型 (1)吉備	

裸眼 = 裸眼観察 裸眼による観察: L = 粒径が2mm以上 中 = 量が多い 多 = 量が非常に多い 微 = 量がごく僅か 稀 = 量がごく僅か 一 = 以下の粒径がある 貝 = 貝殻状 フ = フジツボ状 パ = 砥石状 E = 自形のものがある  
 未満 = 非 = 量が非常に多い 多 = 量が多い 中 = 量が多い 微 = 量がごく僅か 稀 = 量がごく僅か 一 = 以下の粒径がある 貝 = 貝殻状 フ = フジツボ状 パ = 砥石状 E = 自形のものがある  
 20倍 = 実体顕微鏡の倍率が20倍 実体顕微鏡による観察: L = 粒径が1mm未満0.3mm以上 M = 粒径が1mm未満0.3mm以上 S = 粒径が0.3mm未満 非 = 量が非常に多い 多 = 量が多い 中 = 量が多い 微 = 量がごく僅か 稀 = 量がごく僅か 一 = 以下の粒径がある 貝 = 貝殻状 フ = フジツボ状 パ = 砥石状 E = 自形のものがある

表 1-3 大市墓出土の土製品の表面にみられる砂礫 (その3)

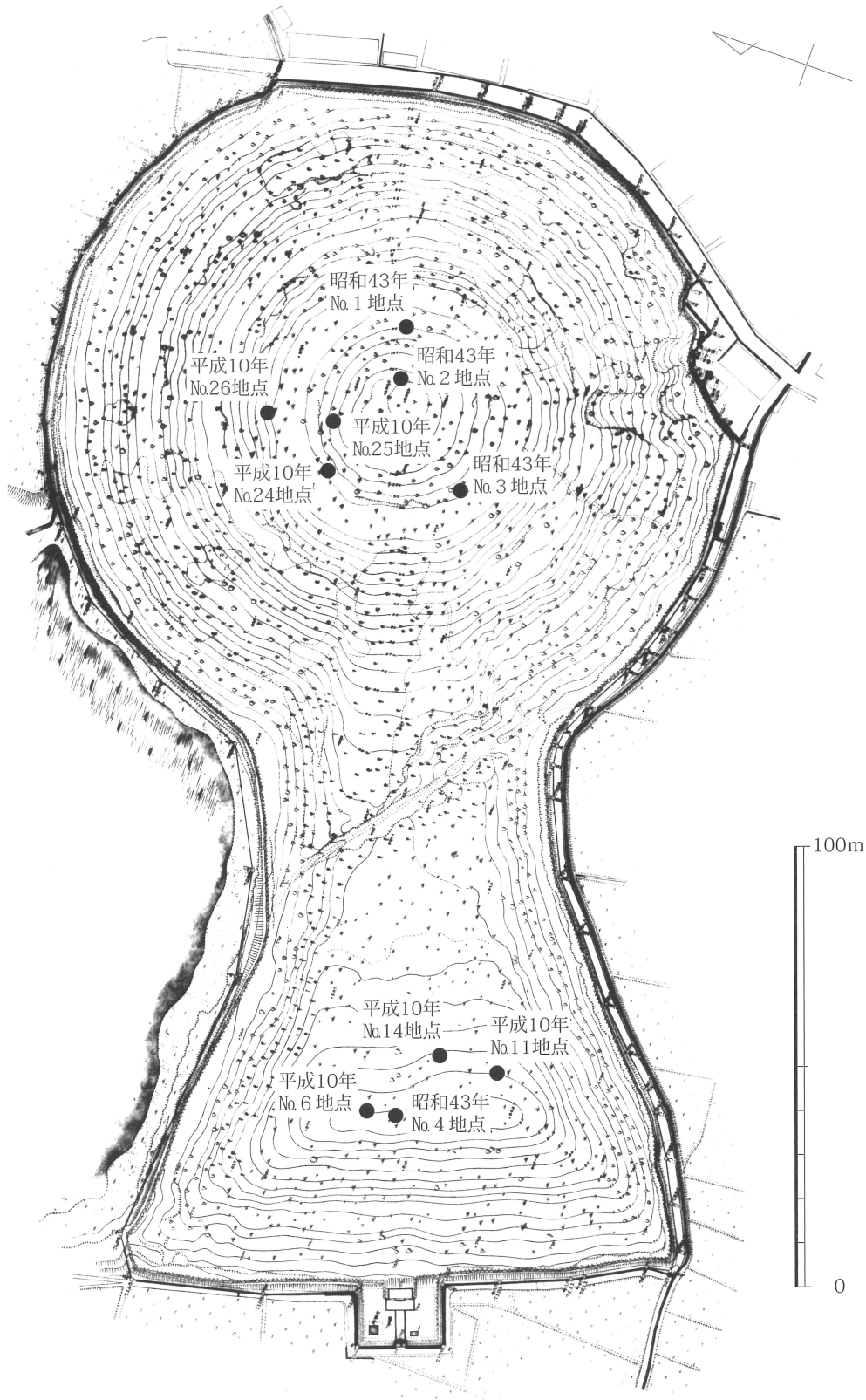
図 番号	観文 番号	観 察 資 料		石 種												物 種		種類と砂 礫の採取 推定地
		出土地点	器 種	花崗岩	閃緑岩	斑輝岩	流紋岩	泥 岩	片 岩	火山ガラス	石 英	長 石	雲 母	角閃石	輝 石			
第3図 43	紀要51号 第17図131	後円部 平10.No.25	特殊器台	L-微 角	L-稀 角	裸眼	裸眼	裸眼	裸眼	M-多 E-僅	M-中	裸眼	M-僅 EF-微	裸眼	20倍	I b類型 (1)吉備		
第3図 44	紀要51号 第17図133	後円部 平10.No.25	特殊器台	L-微 角	L-中 角	裸眼	裸眼	裸眼	裸眼	L-僅 E-僅	M-中	裸眼	M-中	裸眼	20倍	II ad類型 (1)吉備		
第3図 45	紀要51号 第17図135	後円部 平10.No.25	特殊器台	L-微 角	L-僅 角	裸眼	裸眼	裸眼	裸眼	M-中 E-僅	M-中	裸眼	M-中	裸眼	20倍	II ad類型 (1)吉備		
第4図 46	紀要51号 第18図137	後円部 平10.No.26	特殊器台	L-微 角	L-稀 角	裸眼	裸眼	裸眼	裸眼	M-中 E-僅	M-中	裸眼	M-中	裸眼	20倍	I b類型 西門川		
第4図 47	紀要51号 第18図140	後円部 平10.No.26	特殊器台	L-中 角	L-中 角	裸眼	裸眼	裸眼	裸眼	M-中	M-中	裸眼	M-稀	裸眼	20倍	I b類型 吉備		
第4図 48	紀要51号 第18図141	後円部 平10.No.26	特殊器台	L-中 角	L-中 角	裸眼	裸眼	裸眼	裸眼	M-中	M-中	裸眼	M-微	裸眼	20倍	I b類型 吉備		
第4図 49	紀要51号 第18図142	後円部 平10.No.26	特殊器台	L-中 角	L-中 角	裸眼	裸眼	裸眼	裸眼	M-中	M-中	裸眼	M-微	裸眼	20倍	I b類型 吉備		
第4図 50	紀要51号 第18図143	後円部 平10.No.26	特殊器台	L-中 角	L-中 角	裸眼	裸眼	裸眼	裸眼	M-中	M-中	裸眼	M-微	裸眼	20倍	I b類型 吉備		
第4図 51	紀要51号 第18図144	後円部 平10.No.26	特殊器台	L-中 角	L-中 角	裸眼	裸眼	裸眼	裸眼	M-中	M-中	裸眼	M-稀	裸眼	20倍	I b類型 吉備		
第4図 52	紀要51号 第18図145	後円部 平10.No.26	特殊器台	L-中 角	L-中 角	裸眼	裸眼	裸眼	裸眼	M-中	M-中	裸眼	M-稀	裸眼	20倍	I b類型 吉備		
第4図 53	紀要51号 第18図146	後円部 平10.No.26	特殊器台	L-中 角	L-中 角	裸眼	裸眼	裸眼	裸眼	M-中	M-中	裸眼	M-稀	裸眼	20倍	I b類型 吉備		
第4図 54	紀要51号 第18図147	後円部 平10.No.26	特殊器台	L-中 角	L-中 角	裸眼	裸眼	裸眼	裸眼	M-中	M-中	裸眼	M-稀	裸眼	20倍	I b類型 吉備		
第5図 55	紀要27号 第2図2	前方部 昭43.No.4	壺形土器	L-稀 角	L-稀 角	裸眼	裸眼	裸眼	裸眼	M-稀	S	裸眼	L-中	裸眼	20倍	III a類型 茅原付近		
第5図 56	紀要27号 第2図3	前方部 昭43.No.4	壺形土器	L-稀 角	L-稀 角	裸眼	裸眼	裸眼	裸眼	M-稀	S	裸眼	L-中	裸眼	20倍	III a類型 茅原付近		
第5図 57	紀要27号 第2図4	前方部 昭43.No.4	壺形土器	L-稀 角	L-稀 角	裸眼	裸眼	裸眼	裸眼	M-稀	S	裸眼	L-中	裸眼	20倍	III a類型 茅原付近		
第6図 59	紀要51号 第12図14	前方部 平10.No.11	壺形土器	L-稀 角	L-稀 角	裸眼	裸眼	裸眼	裸眼	M-稀	M-僅	裸眼	M-僅	裸眼	20倍	III a類型 茅原付近		
第6図 60	紀要51号 第12図17	前方部 平10.No.11	壺形土器	L-稀 角	L-稀 角	裸眼	裸眼	裸眼	裸眼	M-稀	M-僅	裸眼	M-僅	裸眼	20倍	III a類型 茅原付近		
第6図 61	紀要51号 第12図20	前方部 平10.No.11	壺形土器	L-稀 角	L-稀 角	裸眼	裸眼	裸眼	裸眼	M-稀	M-僅	裸眼	M-僅	裸眼	20倍	III a類型 茅原付近		
第6図 62	紀要51号 第12図27	前方部 平10.No.11	壺形土器	L-稀 角	L-稀 角	裸眼	裸眼	裸眼	裸眼	M-稀	M-僅	裸眼	M-僅	裸眼	20倍	III a類型 茅原付近		
第6図 63	紀要51号 第12図31	前方部 平10.No.11	壺形土器	L-稀 角	L-稀 角	裸眼	裸眼	裸眼	裸眼	M-稀	M-僅	裸眼	M-僅	裸眼	20倍	III a類型 茅原付近		

裸眼 = 裸眼観察 裸眼にによる観察 : L = 粒径が2mm以上 S = 粒径が0.5mm未満 20倍 = 実体顕微鏡の倍率が20倍 実体顕微鏡による観察 : L = 粒径が1mm未満0.3mm以上 M = 粒径が1mm未満0.3mm以上 S = 粒径が0.3mm未満 非 = 量が非常に多い 多 = 量が多い 中 = 量が中 僅 = 量が僅か 微 = 量がごく僅か 稀 = 量がごく僅か 裸 = 量がある 貝 = 貝殻状 フ = フジツボ状 パ = 瓢箪状 E = 自形のものがある EF = 結晶面があるものがある 類型区分は註(3)を参照。

表 1-4 大市墓出土の土製品の表面にみられる砂礫 (その4)

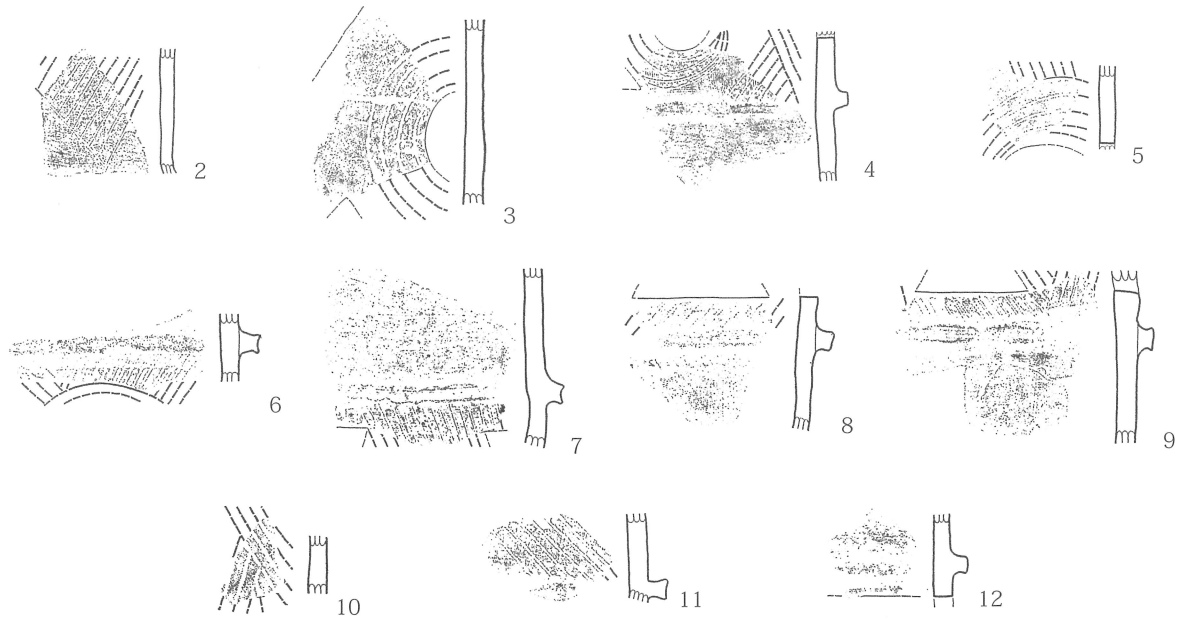
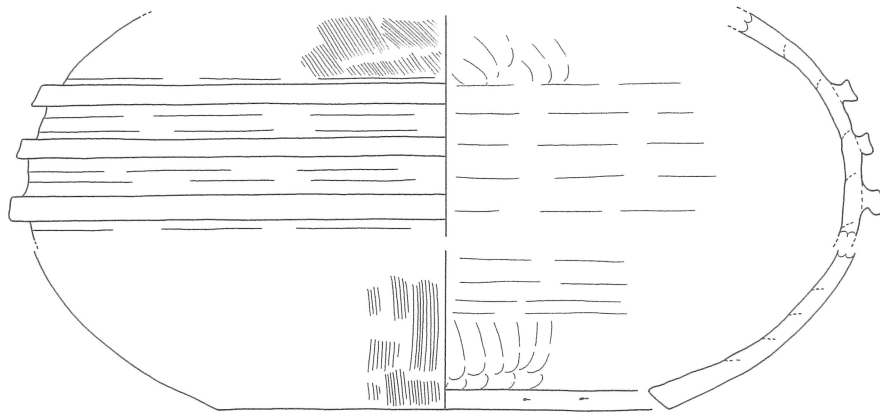
図番号	観察資料		石種										鉱物種										砂礫の採取地 推定地		
	報文番号	出土地点	器種	花崗岩	閃緑岩	斑岩	流紋岩	泥岩	片岩	火山ガラス	石英	長石	雲母	角閃石	輝石	石英	雲母	角閃石	輝石	石英	雲母	角閃石		輝石	
第6図 64	紀要51号 第12図33	前方部 平10 No.11	壺形土器																						IIIa類型 茅原付近
第6図 65	紀要51号 第12図39	前方部 平10 No.11	壺形土器	L																					IIIa類型 茅原付近
第6図 66	紀要51号 第12図41	前方部 平10 No.11	壺形土器	L	稀																				IIIa類型 茅原付近
第6図 67	紀要51号 第13図42	前方部 平10 No.11	壺形土器																						IIIa類型 茅原付近
第6図 68	紀要51号 第13図43	前方部 平10 No.11	壺形土器	M	稀																				IIIa類型 茅原付近
第6図 69	紀要51号 第13図52	前方部 平10 No.11	壺形土器	L	微																				IIIa類型 茅原付近
第6図 70	紀要51号 第13図53	前方部 平10 No.11	壺形土器	L	稀																				IIIa類型 茅原付近
第7図 71	紀要51号 第11図1	前方部 平10 No.6	壺形土器	L	稀																				IIIa類型 茅原付近
第7図 72	紀要51号 第11図2	前方部 平10 No.6	壺形土器	L	稀																				IIIa類型 茅原付近
第7図 73	紀要51号 第11図3	前方部 平10 No.6	壺形土器	L	稀																				IIIa類型 茅原付近
第7図 74	紀要51号 第11図7	前方部 平10 No.6	壺形土器																						IIIa類型 茅原付近
第7図 75	紀要51号 第11図9	前方部 平10 No.6	壺形土器	L	微																				IIIa類型 茅原付近
第7図 76	紀要51号 第11図10	前方部 平10 No.6	壺形土器	L	稀																				IIIa類型 茅原付近
第7図 77	紀要51号 第14図67	前方部 平10 No.14	壺形土器	L	稀																				IIIa類型 茅原付近
第7図 78	紀要51号 第15図77	前方部 平10 No.14	壺形土器	M	稀																				IIIa類型 茅原付近
第7図 79	紀要51号 第15図78	前方部 平10 No.14	壺形土器	L	稀																				IIIa類型 茅原付近
第7図 80	紀要51号 第15図89	前方部 平10 No.14	壺形土器	L	稀																				IIIa類型 茅原付近
第8図 81	紀要51号 第19図150	不明	特殊器台	L	稀																				IIIa類型 茅原付近
第8図 82	紀要51号 第19図151	不明	特殊器台	L	微																				IIa類型 (I)吉備
第8図 83	紀要51号 第19図152	不明	特殊器台	L	微																				IIa類型 (I)吉備

裸眼 = 裸眼観察 観察：L = 粒径が2mm以上 M = 粒径が0.5mm未満 S = 粒径が0.3mm未満 非 = 量が非常に多い 多 = 量が多い 中 = 量が中 僅 = 量が僅か 微 = 量がごく僅か 稀 = 量がごく僅か 一 = 以下の粒径がある 貝 = 貝殻状 フ = フジツボ状 パ = 軽石状 E = 自形のものがある EF = 結晶面があるものがある  
類区区分は註(3)を参照。

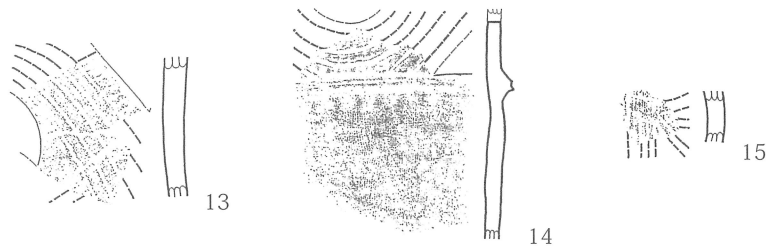


第 1 図 大市墓 観察資料出土位置 (1/1,500)

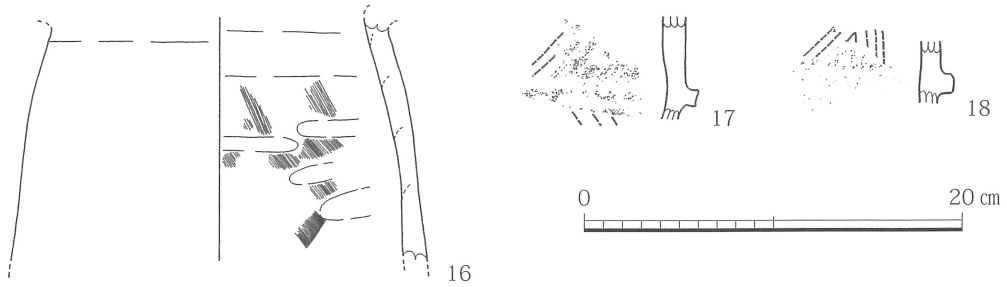
昭和 43 年 No. 1 地点



昭和 43 年 No. 2 地点

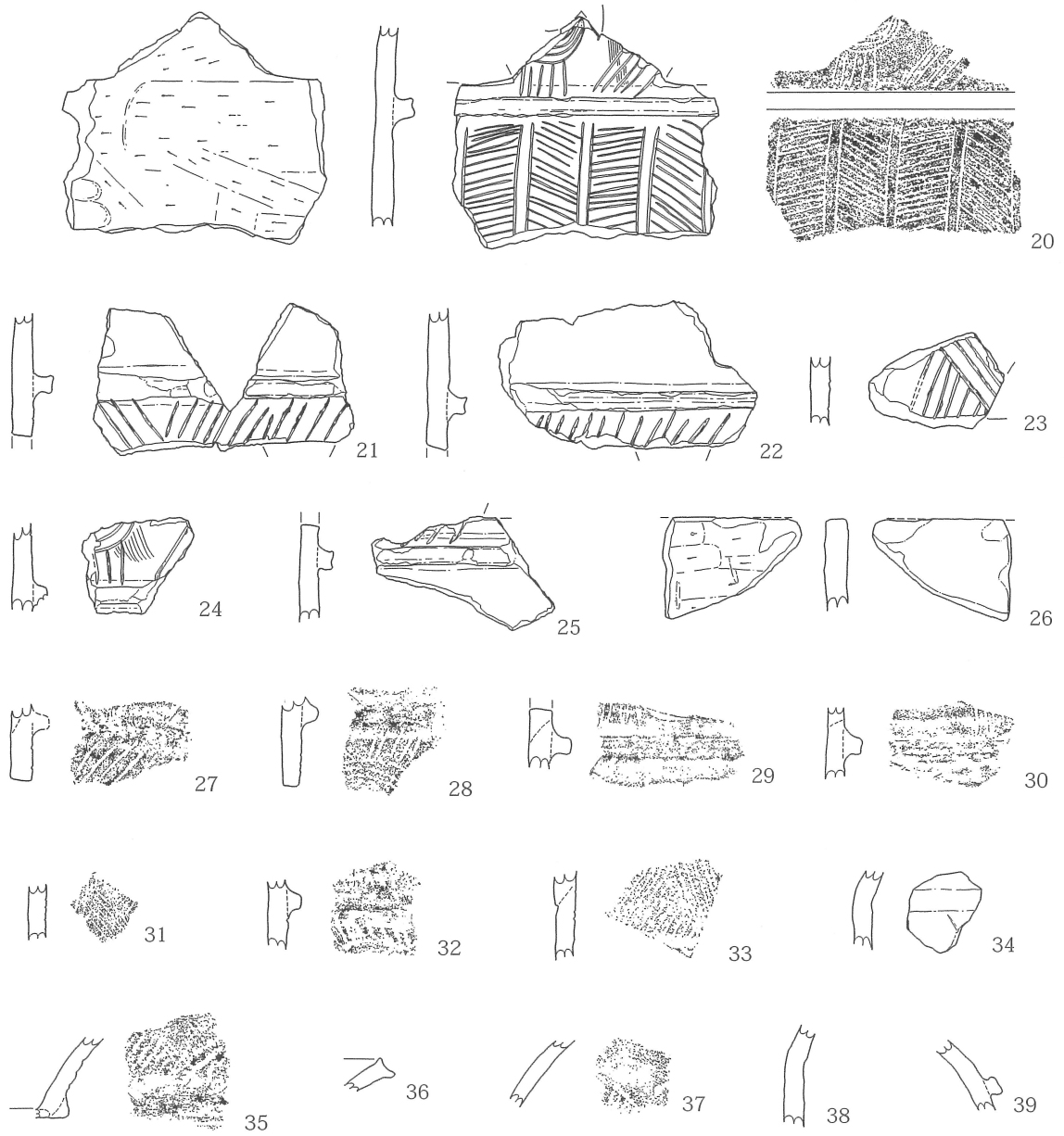


昭和 43 年 No. 3 地点

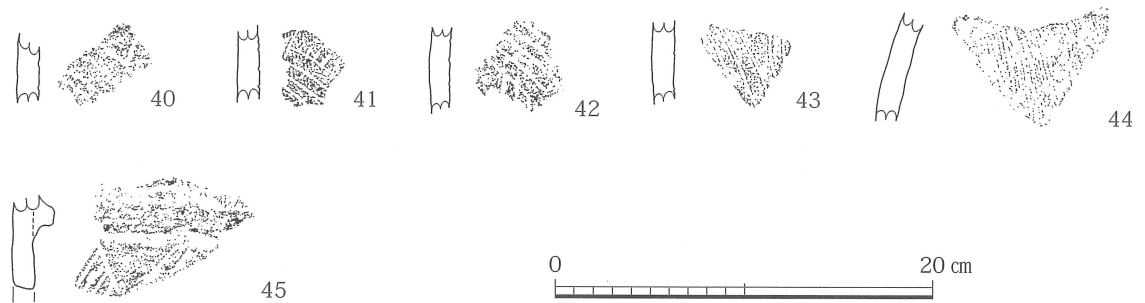


第 2 図 大市墓 観察資料 (1) 後円部出土品 (1) (1/4)

平成 10 年No.24 地点

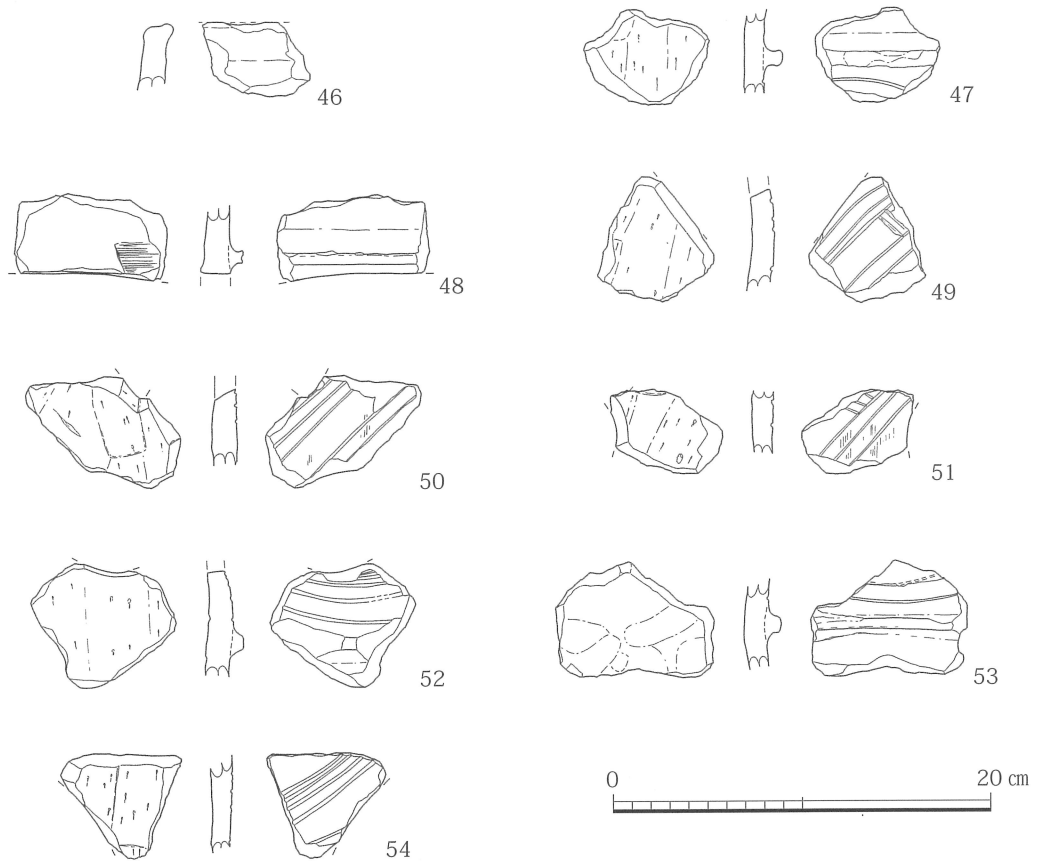


平成 10 年No.25 地点



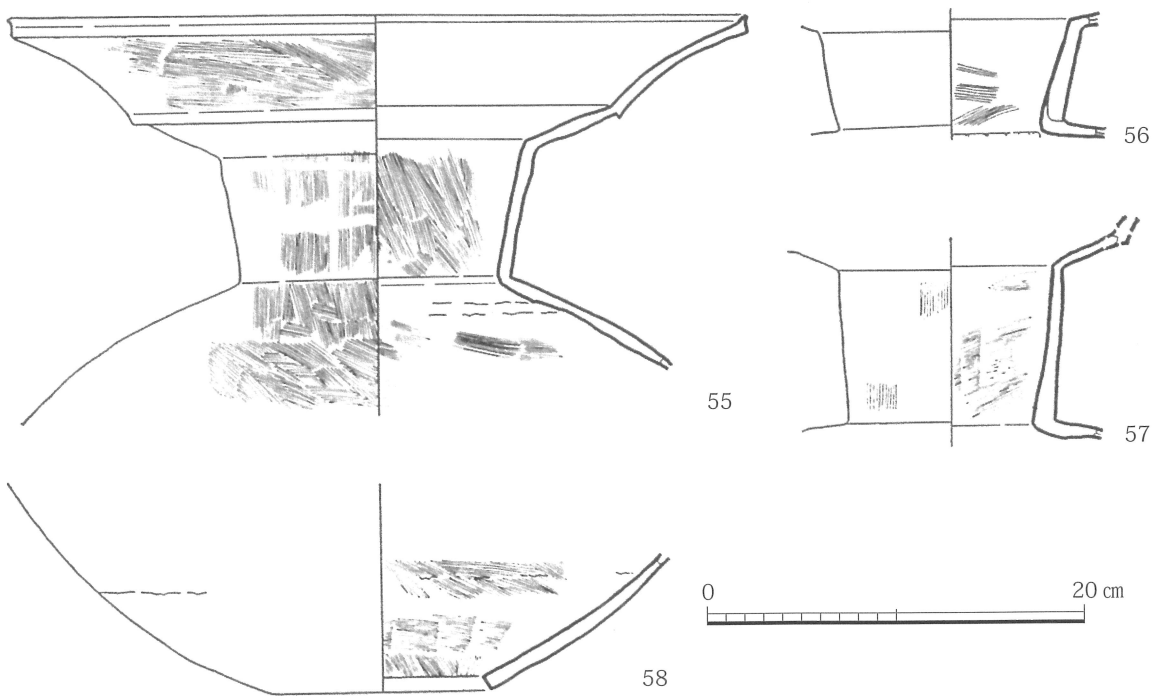
第 3 図 大市墓 観察資料 (2) 後円部出土品 (2) (1/4)

平成 10 年 No.26 地点

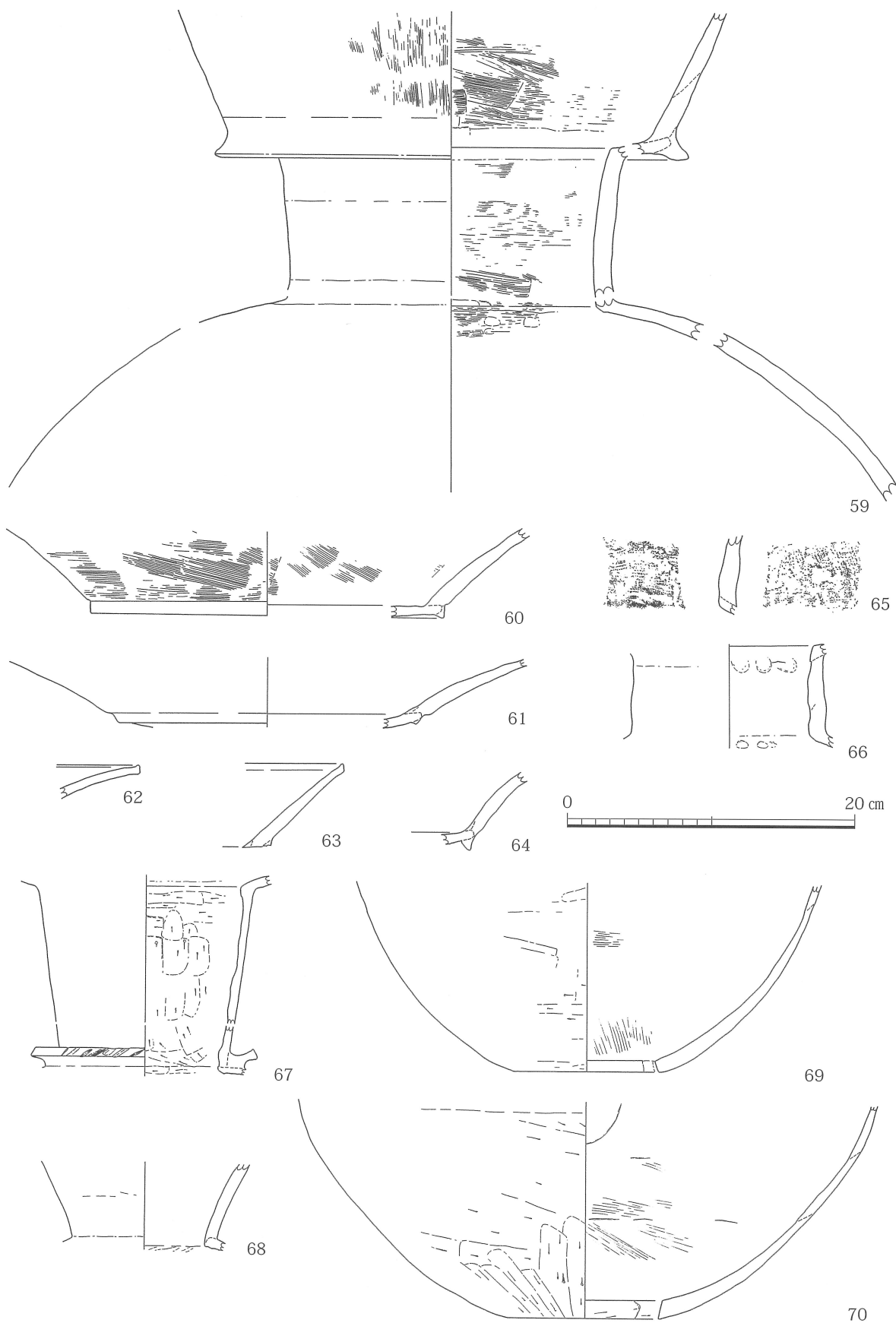


第 4 図 大市墓 観察資料 (3) 後円部出土品 (3) (1/4)

昭和 43 年 No. 4 地点

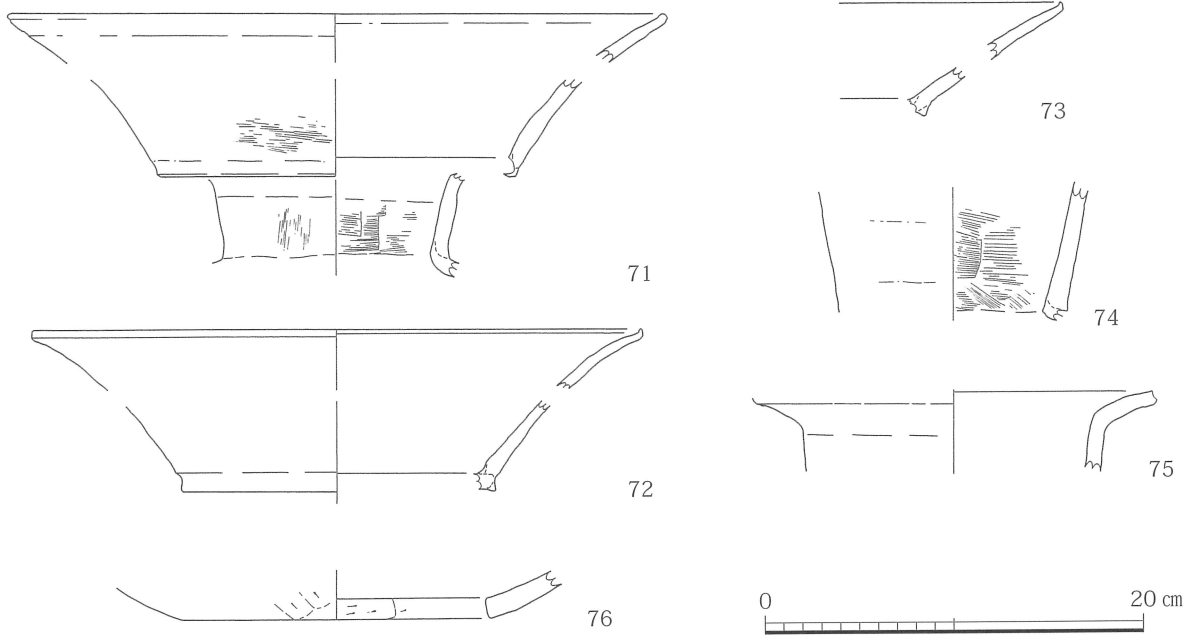


第 5 図 大市墓 観察資料 (4) 前方部出土品 (1) (1/4)

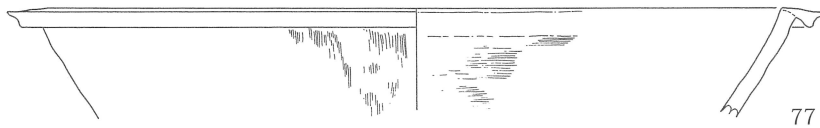


第 6 図 大市墓 観察資料 (5) 前方部出土品 (2) (1/4)

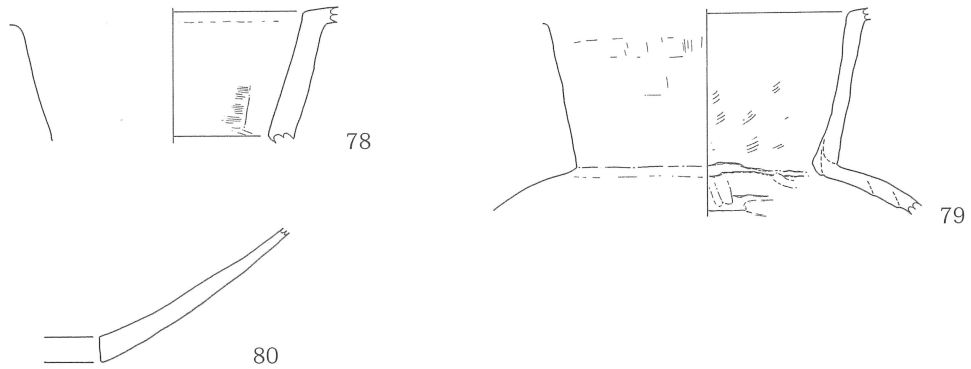
平成 10 年No.6 地点



平成 10 年No.14 地点

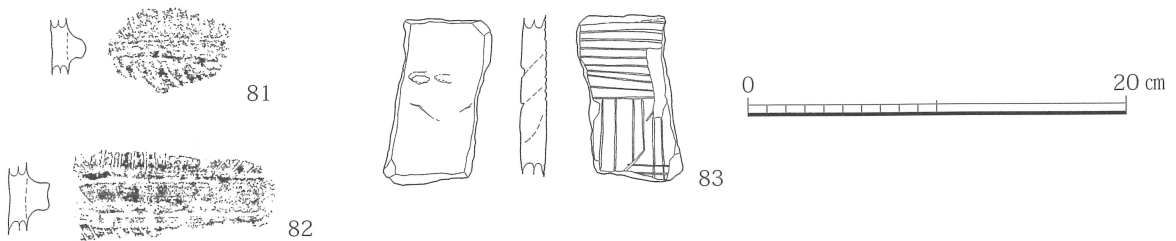


平成 10 年No.15 地点



第 7 図 大市墓 観察資料 (6) 前方部出土品 (3) (1/4)

平成 10 年出土地点不明



第 8 図 大市墓 観察資料 (7) 出土地点不明出土品 (1/4)

角閃石：黒色、褐色、茶褐色で、粒形が角、亜円、粒径が最大 8 mm である。結晶面が認められるものがある。

輝石：褐色透明、淡灰緑色、青銅色透明で、粒形が角、粒径が最大 8 mm である。粒状、柱状を呈するものがある。

## 2 砂礫種構成と類型区分

大市墓から出土した特殊器台・特殊壺・壺形埴輪・壺形土器等、桜井茶臼山古墳から出土した壺形土器の表面にみられる砂礫種とその量をもとに類型に区分すれば、花崗岩質岩起源と推定される砂礫を主とするⅠ類型、閃緑岩質岩起源と推定される砂礫を主とするⅡ類型、斑糲岩質岩起源と推定される砂礫を主とするⅢ類型となる。更に、副となる少量の砂礫をもとに細区分すれば、Ⅰ類型はⅠb型、Ⅰbd類型、Ⅰc類型に、Ⅱ類型はⅡad類型に、Ⅲ類型はⅢa類型、Ⅳ類型はⅣb類型、Ⅳn類型となる。

各類型の特徴について述べる。

Ⅰb類型：花崗岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、閃緑岩質岩起源と推定される砂礫を僅かに含む砂礫からなる。

Ⅰbd類型：花崗岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、閃緑岩質岩起源・流紋岩質岩起源と推定される砂礫や自形の石英を僅かに含む砂礫からなる。

Ⅰc類型：花崗岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、斑糲岩質岩起源と推定される砂礫を僅かに含む砂礫からなる。

Ⅱad類型：閃緑岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、花崗岩質岩起源・流紋岩質岩起源と推定される砂礫や自形の石英を僅かに含む砂礫からなる。

Ⅲa類型：斑糲岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、花崗岩質岩起源と推定される砂礫を僅かに含む砂礫からなる。

Ⅳb類型：流紋岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、閃緑岩質岩起源と推定される砂礫を僅かに含む砂礫からなる。

Ⅳn類型：流紋岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、他形の角閃石を僅かに含む砂礫からなる。

## 3 大市墓と桜井茶臼山古墳出土土製品の砂礫構成の比較

大市墓と桜井茶臼山古墳から出土した土製品の砂礫構成について比較する。

### (1) 大市墓出土土製品の砂礫構成

大市墓出土土製品の砂礫種構成を類型に区分すれば、Ⅰ類型、Ⅱ類型、Ⅲ類型、Ⅳ類型となり、前方部から出土している壺形土器・壺形埴輪はⅢ類型に属し、後円部から出土している特殊器台・特殊壺はⅠ類型、Ⅱ類型、Ⅳ類型に属する。前方部と後円部出土の土製品を比べれば、前方部にみられるⅢ類型の砂礫構成を示す土製品が後円部出土資料にみられない。後円部にみられるⅠ類型、Ⅱ類型、Ⅳ類型に属する土製品の砂礫構成と同様の土製品が前方部にみられない。

更に、類型に区分した砂礫を警察のみならず誰でもが日常におこなっている人相の比較と同じように砂礫の見た目の感じ(砂礫相・砂礫構成)をもとに後円部の資料を区分すれば、Ⅰb類型に属する 8 資料については砂礫構成(砂礫相)が酷似し、同質の胎土を使用して製作されたものであるといえる。この資料については出土状況と紋様から同一個体の可能性が示されている<sup>(4)</sup>。今回の砂礫相に基づく比較においても酷似する砂礫が使用されていることから同一個体の可能性が高い。また、Ⅰbd類型の 7 資料を砂礫相から区分すれば角閃石に結晶面(表 1 では EF と表記)がみられるⅠbd類型(1)と角閃石に結晶面がみられないⅠbd類型(2)に細区分される。

### (2) 桜井茶臼山古墳出土壺形土器の砂礫構成(表 2)

昭和 26 年に発掘調査され、その時に出土した壺形土器が橿原考古学研究所附属博物館に保管されている。

この土器の表面にみられる砂礫種構成は、Ⅲ類型に属するものが多く、Ⅰ類型、Ⅱ類型に属するものが僅かである。個々の個体を確認できる資料は僅かであるが、少なくとも3種類の砂礫を使用して製作された土器があるといえる。

### (3) 大市墓と桜井茶臼山古墳の土製品の砂礫構成の比較 (表3)

大市墓と桜井茶臼山古墳の土製品に共通する類型は、Ⅱad 類型、Ⅲa 類型である。Ⅲa 類型の砂礫は斑糲岩質岩起源の砂礫を主とし、石英や黒雲母等の花崗岩質岩起源の砂礫が僅かに含まれる。この類型の斑糲岩質岩起源と推定される砂礫には、砕かれたような角をもつ角閃石・輝石・長石・斑糲岩がみられる。特に、灰白色の長石は5mmに及ぶものがあり、鋭い角をもつものが多い。このような鋭い角が残る粒は自然現象では確認されず、人為的な現象で生じたもの、即ち、岩石を砕いて作った砂礫と推定される。このような砂礫相を示す類型はⅢa 類型、Ⅰc 類型である。大市墓の前方部から出土したⅢa 類型の資料と桜井茶臼山古墳の後円部から出土したⅢa 類型の資料の砂礫相は酷似し、同じ地の砂礫を使用して製作されたと推定される。Ⅱad 類型の砂礫は他形の角閃石が多く含まれ、流紋岩や複六角錐をなす自形の石英が僅に含まれる。大市墓のⅡad 類型 (1) としての資料には他形の石英と複六角錐をなす自形の石英がみられ、角閃石の表面の一部に結晶面がみられるものがあり、閃緑岩には針状で結晶面がみられる角閃石が含まれる。しかし、桜井茶臼山古墳のⅡad 類型 (3) としての資料には他形と自形の石英が認められ、角閃石が他形である。両者のⅡad 類型に属する砂礫は砂礫相が異なる。

## 4 大市墓と桜井茶臼山古墳の土製品の砂礫の採取推定地

大市墓と桜井茶臼山古墳が位置する周囲1km程の範囲内で採取できる砂礫について述べ、当付近で採取できない砂礫については当地から近距離の地で同様の砂礫構成(砂礫相)の砂礫が採取できる地を土製品の砂礫の採取地とする。

大市墓が位置する北側と南側に東西方向の谷地形がみられ、巻向川が南側に位置する。北側の谷付近では長石が多く、黒雲母や角閃石が殆どみられない砂礫構成の砂礫が分布し、巻向川付近では長石が目立つが、黒雲母や角閃石も含まれる。拳大以上の礫にアプライト質岩や斑糲岩が目立つ。しかし、茅原付近に分布する段丘堆積層には媒乱した斑糲岩の礫が多く含まれ、砂礫には角閃石が多く、輝石も含まれる。桜井茶臼山古墳は領家花崗岩の残丘上に構築され、南側の平坦地には段丘堆積層が分布する。この段丘堆積層の砂礫は長石が多く、角閃石と黒雲母が僅かである。角閃石には結晶面が認められない。また、この北方にある初瀬川の砂礫は石英と長石が多く、石英に自形を呈するものが稀にみられ、角閃石が僅かで結晶面がみられない。大市墓の北方にある景行天皇陵付近の砂礫は石英と長石が多く、角閃石や黒雲母が僅かに含まれ、中山大塚古墳付近の砂礫は長石が多く、角閃石や黒雲母が少ない<sup>(5)</sup>。

大市墓の前方部と桜井茶臼山古墳の後円部から出土した壺形土器で、Ⅲa 類型に属する砂礫は茅原付近の段丘堆積層に含まれる砂礫に斑糲岩を砕いて混ぜた砂礫に似ている。Ⅰc 類型の砂礫は茅原付近の砂礫にアプライト質岩を粉碎した砂礫を多量に混ぜたような砂礫構成を示す。以上のことからⅢa 類型に属する土製品の胎土は茅原付近の段丘堆積層の土に斑糲岩を砕いた砂礫、Ⅰc 類型に属する土製品の胎土は茅原付近の段丘堆積層の土にアプライト質岩を砕いた砂礫を混ぜたものであると推定される。

大市墓から出土しているⅠ類型、Ⅱ類型、Ⅳ類型の土製品の砂礫は、奈良盆地東南部付近ではみられない砂礫構成の砂礫である。Ⅰbd 類型 (1)、Ⅱad 類型 (1) としての砂礫は総社平野の東部にある足守川流域の加茂付近の砂礫と酷似する。Ⅰb 類型、Ⅰbd 類型 (2)、Ⅱad 類型 (2)、Ⅳ類型としての砂礫は総社平野の何処かの砂礫と推定される。

## 5 大市墓と吉備地方出土の特殊器台・特殊壺の砂礫の比較

吉備地方を中心に出土する特殊器台・特殊壺の表面にみられる砂礫を観察した(表4)。同じ砂礫種構成のために同じ類型としているが、砂礫相的に区分できるものを( )内に1・2の数字を入れて別であるこ





表3 大市墓と桜井茶臼山古墳出土の祭祀に関係したと推定される土製品と砂礫の採取推定地

出土地点	器種	類型	砂礫の採取推定地			合計	
			吉備	茅原	産地不明		
大市墓	前方部	壺形土器		23		23	
		壺形埴輪		3		3	
	後円部	特殊壺	Ⅱad類型(1)	2			2
		特殊器台・ 特殊器台形埴輪	I b類型	9			9
			I bd類型(1)	5			5
			I bd類型(2)	2			2
			Ⅱad類型(1)	34			34
			IVb類型	1			1
IVn類型	1				1		
桜井茶臼山古墳	後円部	壺形土器	I c類型		3		3
			Ⅲa類型		35		35
			Ⅱad類型(3)			1	1
合計			54	64	1	119	

(集計の数字は観察した資料数で土製品の個体数ではない)

とを示した。(1)とした砂礫構成は総社平野東部の足守川流域の加茂付近の砂礫と推定されるもので、(2)としたものは足守川付近の砂礫と異なる砂礫である。この観察結果は以前に公表した内容<sup>(6)</sup>を今回使用した類型区分に再編集したものである。

吉備地方に分布する特殊器台や特殊壺の表面にみられる砂礫はI類型、II類型、IV類型に区分される。更に、砂礫構成と総社平野付近の砂礫分布を考慮して細区分すれば、I bd類型(1)・II a類型(1)・II ad類型(1)とした加茂付近の砂礫以外に、I b類型・II a類型(2)の砂礫、I bd類型(2)・II ad類型(2)の砂礫、II adg類型・II ag類型の砂礫、IV ab類型・IV e類型の砂礫となり、すくなくとも5ヶ所の砂礫の砂礫採取地が総社平野付近で推定される。

大市墓の後円部から出土している特殊器台・特殊壺の表面にみられる砂礫は、加茂付近の砂礫と推定されるI bd類型(1)・II ad類型(1)、加茂付近以外の総社平野の砂礫と推定されるI b類型とI bd類型(2)、類似あるいは酷似する砂礫を見聞していないが総社平野の何処かの砂礫と推定されるIV b類型・IV n類型と3区分される。I b類型の砂礫については前述のように桜井市から天理市にかけての山麓付近ではみられない砂礫構成で、吉備地方の便木山遺跡、矢藤治山遺跡、天狗松遺跡、柳坪遺跡の特殊器台・壺の砂礫構成と似ており、I bd類型(2)の砂礫は天狗松遺跡、柳坪遺跡の特殊器台・特殊壺の砂礫構成と似ている。また、IV類型の砂礫は山津田遺跡、和田遺跡1号墓、松ヶ迫・矢谷遺跡、壺笠山古墳の特殊器台・特殊壺の砂礫構成と似ている。

以上のことから、大市墓の後円部から出土した特殊器台・特殊壺は吉備地方に出土している特殊器台・特殊壺の砂礫構成と似ており、大市墓付近ではみられない砂礫構成の砂礫であることから、総社平野の砂礫を使用して製作されたものであると推定される。

## おわりに

大市墓と桜井茶臼山古墳から出土した土製品の表面にみられる砂礫を肉眼で観察した結果、次のようなことが明らかとなった。

- ① 大市墓の祭祀に使用された土製品の生産地は、前方部の土製品が桜井市茅原付近、後円部の土製品が総社平野付近の4地点と推定される。この4地点の中でも足守川流域の加茂遺跡付近の砂礫構成を示すI bd類型(1)、II ad類型(1)の資料が多い。前方部の祭祀に吉備地方で生産されたと推定される土製品は出土していない。
- ② 大市墓の前方部で出土している壺形土器の砂礫は、桜井茶臼山古墳の後円部墳頂から出土している壺形土器の砂礫構成と酷似するものが多い。これらの壺形土器は茅原付近の段丘堆積層の砂礫に斑瀧岩を

表4 特殊器台・特殊器台形埴輪・特殊壺の砂礫の類型と出土遺跡

遺跡名	器種	砂礫の類型										
		I 類型			II 類型						IV 類型	
		I b	I bd(1)	I bd(2)	II a(1)	II a(2)	II ad(1)	II ad(2)	II adg	II ag	IV ab	IV e
皿丸山遺跡(津山市)	器台						4					
下道山遺跡(津山市)	器台						2					
権現山遺跡(津山市)	器台						2		1			
仁王免遺跡(美咲町)	器台						2					
我城山遺跡(瀬戸内市)	器台					1						
便木山遺跡(赤磐市)	器台				5		3					
	壺	1				2						
浦間茶白山古墳(岡山市)	器台		1		2		9					
	壺						1					
網浜茶白山古墳(岡山市)	器台				5							
	壺		1									
甫崎遺跡(岡山市)	器台				1		3					
	壺						1					
矢藤治山遺跡(岡山市)	器台	1					9					
大崎八幡山遺跡(岡山市)	器台				1							
矢部南向遺跡(倉敷市)	器台				2							
矢部B 42号墳(倉敷市)	器台						3					
向木見遺跡(倉敷市)	器台					3						
堀越遺跡1号墓(倉敷市)	器台		3									
	壺		1									
天狗松遺跡(総社市)	器台	7		2								
山津田遺跡(総社市)	器台										4	
	壺										1	
柳坪遺跡(総社市)	器台	1		1								
	壺	1										
宮山遺跡(総社市)	器台					2		2		1		
	壺							1				
伊予部山遺跡(総社市)	器台					1		2				
	壺							1				
一倉遺跡(総社市)	器台							1				
	壺							1				
茶白山城遺跡(矢掛町)	器台							2				
	壺							1				
西山遺跡(倉敷市)	器台							1				
和田遺跡1号墓(浅口市)	器台							2			6	3
新市谷遺跡(新見市)	器台				2			1				
西江遺跡(新見市)	器台				1			7				
	壺							7				
牛川遺跡(庄原市)	器台							2				
松ヶ迫・矢谷遺跡(三次市)	器台							3				
	壺							1			1	
西谷3号墓(出雲市)	器台							4				
	壺							2				
壺笠山古墳(大津市)	器台		1					1			3	
中山大塚古墳(天理市)	器台							6				

表に示す数字は資料の観察個数で、個体数ではない。器種では特殊器台と特殊器台形埴輪を器台、特殊壺を壺と表記した。I ab(1)・II a(1)・II ad(1)は吉備の足守川の砂礫と推定され、I ab(2)・II a(2)・II ad(2)は足守川の砂礫といいきれないものである。

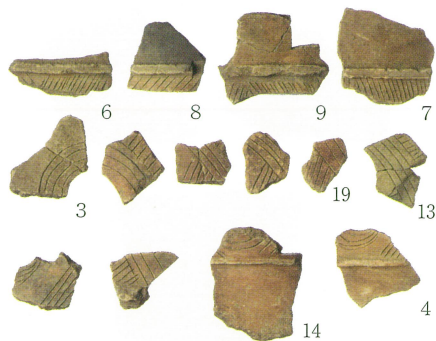
砕いた砂礫を混和して製作されたものであると推定される。

註

- (1) 中村一郎・笠野 毅「大市墓の出土品」『書陵部紀要』第 27 号、宮内庁書陵部、1976 年。  
徳田誠志・清喜裕二「倭迹迹日百襲姫命大市墓被害木処理事業（復旧）箇所調査」『書陵部紀要』第 51 号、宮内庁書陵部、2000 年。
- (2) 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館『大和考古資料目録』第 11 集 前期古墳資料（1）、1984 年。
- (3) 奥田 尚「河川の砂礫種とその類型—大和・河内・伊勢湾周辺の河川を中心として—」『庄内式土器研究Ⅱ』、庄内式土器研究会、1992 年。
- (4) 徳田誠志・清喜裕二「倭迹迹日百襲姫命大市墓被害木処理事業（復旧）箇所調査」、前掲註（1）。
- (5) 奥田 尚「土器の砂礫構成と土器の生産地推定」『纏向学研究』第 1 号、桜井市纏向学研究センター、2013 年。
- (6) 奥田 尚「砂礫構成からみた特殊器台と埴輪の動き—岡山県内を例として—」『末永先生米寿記念 獻呈論文集』坤、末永先生米寿記念会、1985 年。  
奥田 尚「吉備型特殊器台・壺の動き」奈良県立橿原考古学研究所編『橿原考古学研究所論集』第 10、吉川弘文館、1988 年。



1 特殊壺 胴部



2 特殊器台形埴輪 胴部



3 特殊壺 頸部(外面)



4 特殊壺 頸部(内面)



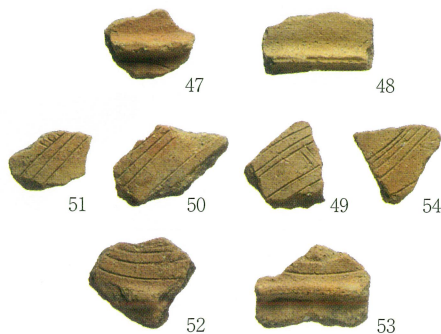
5 特殊器台形埴輪 胴部(外面)



6 特殊器台形埴輪 胴部(内面)



7 特殊器台形埴輪 口縁部・胴部



8 特殊器台 胴部



9 二重口縁壺形埴輪 口縁部・頸部



10 壺 頸部



11 二重口縁壺形埴輪 口縁部(横から)



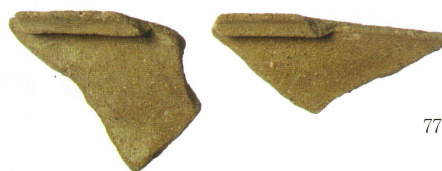
12 二重口縁壺形埴輪 口縁部(下から)



13 二重口縁壺形埴輪 底部(外面)



14 二重口縁壺形埴輪 底部(内面)



15 二重口縁壺形埴輪 口縁部